

鯖江市の水道(2)

45年の歩み 余裕の配水能力へ

鯖江市の上水道が始まったのは昭和34年で、市が誕生した3年後でした。熊田の水源地から取水し、初めて給水しました。

当時の給水人口は23,500人で、1日あたりの最大配水量は5,228^mでの計画でした。

このころは各家庭の井戸水のホームポンプや、簡易水道で飲料水を賄っていました。

昭和36年7月に西山公園の上に配水池ができて給水能力は約2割増



鯖江市民の命の水を供給する日野川

え、昭和50年から第3次拡張計画が進められ、現在の施設能力は1日当たり49,000^m、人口7万人に対し1人1日700^lを賄うことができます。

日野川の恵み 豊かな水源

水源は16カ所の井戸から汲み上げています。熊田、鳥井、東鯖江、定次、五郎丸、横江、上鯖江、住吉など市内各所にあり、日野川が大昔から蛇行していたためにその伏流水が随所で得られるためです。

日野川は福井・滋賀・岐阜の県境の笹ヶ峰が源で、福井市の北で九頭竜川と合流する一級河川です。支流の吉野瀬川、天王川、浅水川、鞍谷川が鯖江平野を巡って合流します。川が鯖江平野を潤し伏流水が水道水となって市民生活を支える恵みの川です。

鯖江の地下水は、玉石混じり砂礫層の中を循環しており、水位の変動は年間1〜2mと小幅で安定しています。

河和田地区にあった尾花と上河内の湧水の水源は、7月の豪雨水害でなくなり、上水道管理センターから配水しています。